

刊行によせて

岐阜城下町は、戦国時代に斎藤道三公や織田信長公らによって整備が進められ、江戸時代には尾張藩岐阜奉行所の支配のもと、商業都市・岐阜町として発展をとげてまいりました。その岐阜町で行われてきた伊奈波神社の祭礼、すなわち岐阜まつりは、多い時で二十四台もの山車が町中を曳き回され、大いに賑わっていたことが伝えられています。近代以降、濃尾震災や太平洋戦争、伊勢湾台風などの苦難がありました。先人の努力によって乗り越え、今日に至っています。

本報告書は、令和三年度から実施した岐阜まつり総合調査の成果をまとめたものです。文献・民俗・建築・工芸など様々な分野の調査を通じて、まつりの変遷や山車・からくり等の構造が明らかになりました。同時に、地域の方々が岐阜まつりを愛する想いや、岐阜まつりの伝統を次世代へ引き継いでいこうとする姿も、岐阜まつりの価値として捉えることができたのではないかと思います。

この報告書によって、多くの方に岐阜まつりの価値や魅力を知っていただくとともに、これからの保存・継承の一助としてお役立ていただけることを願っております。

最後になりましたが、今回長期にわたり調査を担当していただいた岐阜まつり文化財検討委員会委員ならびに調査員の皆様、金華・京町・明德・本郷地区の皆様、ご協力をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

令和八年三月

岐阜市長 柴橋 正直



例 言

一 本書は、岐阜市が令和三～七年度に実施した「岐阜まつり総合調査」の報告書である。

二 調査対象は次のとおりである。

岐阜まつりの歴史

岐阜まつりの組織

岐阜まつりの山車

岐阜まつりの山車のからくり人形

木造町神輿

岐阜まつりの山車と木造町神輿の鋳金具

岐阜まつりの山車のお囃子

三 調査は、岐阜市附属機関設置条例に定める岐阜まつり文化財検討委員会が実施した。

岐阜まつり文化財検討委員会

石樽 康彦 (日本機械学会会員)

岩田 敏也 (東海工業専門学校講師)

小野崎 隆賢 (岐阜若戎車奉曳会役員) (令和三～四年度)

寛 真理子 (公益財団法人犬山城白帝文庫 主任学芸員)

加藤 麗己 (金華安宅車支援会事務局次長)

後藤 勝義 (清影車からくり保存会会長)

日比野 光敏 (愛知淑徳大学教授)

松波 隆生 (岐阜若戎車奉曳会会長) (令和五年度)

虫賀 文人 (朝日大学教授) (令和三～六年度)

四 岐阜まつりの山車と木造町神輿の鋳金具の調査は、久保智康(独立行政法人国立博物館京都国立博物館名誉館員)に依頼した。

五 岐阜まつりの山車のお囃子の調査は、早川真(日本民俗音楽学会会員)に依頼した。

六 報告書作成にかかる事務局は次のとおりである。

岐阜市ぎふ魅力づくり推進部長

牧ヶ野 敏明

(令和三年度)

大塚 直哉

(令和四年度)

田川 智史

(令和五年度)

歴史文化財活用審議監兼歴史博物館長

大塚 清史

(令和三～五年度、六年度)

主幹)

文化財保護課長

高橋 方紀

文化財保護課主幹

内堀 信雄

(令和三年度～五年度、六年度副主幹、七年度特任研究員)

文化財保護課 文化財係長

井川 祥子

(令和三～四年度)

文化財保護課 副主査

三輪 剛史

(令和五年度)

文化財保護課 主事

吉田 晋右

(令和五年度)

文化財保護課 主事

井上 涼太

(令和三～四年度)

七 本書の執筆分担者は次のとおりである。

第一章 (第一～三節) 日比野 光敏 (第四節) 吉田 晋右

第二章 寛 真理子

第三章 吉田 晋右

第四章 岩田 敏也

第五章 石樽 康彦

第六章 岩田 敏也

第七章 久保 智康

第八章 早川 真

第九章 (第一節) 虫賀 文人 (第二節) 大塚 清史

(第三節) 日比野 光敏

八 本書の編集は、文化財保護課 吉田晋右が行った。

九 山車の掲載順は、山車蔵の収蔵順(東から)に準じた。また、山車の名称は岐阜市重要有形民俗文化財「山車」に登録されている名称を使用した。

なお、かつて踊車の曳行団体である「神賑会」は、「神々会」と表記するものもあるが、本書では「神賑会」に統一して表記した。

十 本文の引用・参考文献については、各章末に示した。

十一 本書に掲載した写真は、個別に出典の説明があるもの以外は、各執筆者および岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課が撮影したものである。

十二 一般に「岐阜まつり」とは、四月の第一土曜日に岐阜市各地域で行われ

る祭り、商工関係者による「道三まつり」並びに四月五日の伊奈波神社の例祭を含めた祭りの総称で使われることが多い。このうち、平成三十一年(二〇一九)三月二十八日に岐阜市重要無形民俗文化財に指定された「伊奈波神社祭礼に伴う岐阜まつり行事」は、伊奈波神社の一連の例祭神事および関係する行事群(神幸祭、宵宮、山車奉曳とからくり奉芸、神輿奉納など)を指している。本報告書では、この市指定を受けた文化財を特に「岐阜まつり」として記載する。また、道三まつり等指定以外の祭りの内容も含むときは、「道三まつり等も含む岐阜まつり」と記載する。

十三 山車の実測・作図については、中田建築工房に、神輿の実測・作図については、有限会社白鳳社寺に委託して実施した。また、からくり人形の実測・作図については、石樽康彦に依頼して実施した。

十四 本調査を実施するにあたり、次の団体や関係の方々からご協力、ご教示をいただきました。記して謝意を表します。(五十音、敬称略)

秋田市民俗芸能伝承館 伊奈波神社 加納天満宮 川越市教育委員会 木造「町神輿」 岐阜市自治会連絡協議会 岐阜市歴史博物館 岐阜まつり宵宮実行委員会 岐阜神輿連 京町第一地区清影車奉曳実行委員会 京町第二地区岐阜祭山車奉曳実行委員会 京町第三地区清影車奉曳実行委員会 金華安宅車支援会 金華自治会連合会第一・三地区安宅車奉曳実行委員会 金華自治会連合会第五・六地区安宅車奉曳実行委員会 金華自治会連合会第九・十地区安宅車奉曳実行委員会 久喜市教育委員会 金神社 金神社神輿奉賛会 岐阜睦 護国寺 清影車からくり保存会 関市協働推進部文化課 名古屋市蓬左文庫 ボーイスカウト岐阜第十六団

美濃市教育委員会人づくり文化課 岐阜若戎車奉曳会 井上博
文 岩田創太郎 奥山剛史 小野崎隆賢 加藤和義 加藤敏
弘 加藤麗己 河合喜三 河合喜正 久保智祥 後藤勝義
後藤嘉津幸 後藤孝一郎 後藤卓也 後藤東洋士 小林孝道
酒井広史 佐藤登美子 鈴木博幸 住田喜久次 住田名央妃
高木幹雄 田中一男 辻浩徹 橋爪大 林康司 福井重光
藤井明 藤澤眞一 松波隆生 松原和生 山田益加 萬屋仁兵
衛（二代目）

その他、調査および資料の開示、提供等について多くの方からご協力を
いただきました。記して感謝の意を表します。

目次

刊行によせて	岐阜市長 柴橋 正直	1
第一章 岐阜まつりとその現況		10
第一節 岐阜まつりの概要		
第二節 伊奈波神社の神事		
第三節 山車奉曳、神輿奉納、その他		
第四節 岐阜まつり協賛 道三まつり		
第二章 岐阜まつりの歴史		34
第一節 岐阜町から岐阜市へ		
第二節 伊奈波神社の歴史		
第三節 伊奈波神社の祭り — 濃尾震災まで —		
第四節 濃尾震災から終戦まで		
第五節 戦後の岐阜まつり		
第三章 岐阜まつりの組織と行事		70
第一節 はじめに		
第二節 伊奈波神社の組織		
第三節 岐阜まつりの組織		
第四節 各山車保存会・運営組織と自治会		
第五節 むすびにかえて		
第四章 山車の構造		102
第一節 山車の概要		
第二節 岐阜まつり各山車の歴史と構造・意匠		
第三節 岐阜まつりの山車の特徴		
第五章 山車のからくり		148
第一節 からくりの概要		
第二節 各山車のからくり・操作方法		
第三節 各山車のからくりの図面		
第四節 岐阜まつりのからくりの特徴		
第六章 木造町神輿		190
第一節 神輿の概要		
第二節 岐阜まつりの神輿の構造と意匠		
第三節 木造町神輿の特徴		
第七章 山車・神輿の金工		220
第一節 はじめに		
第二節 各山車の鋳金具		
第三節 木造町神輿の鋳金具		
第四節 補記		
第八章 山車のお囃子		236
第一節 囃子について		
第二節 岐阜まつりの囃子の特色		
第三節 囃子の担い手		
第四節 楽器と奏法		
第五節 稽古と楽譜		
第六節 楽曲について		
第七節 他地域との関係		
第九章 総括		276
第一節 岐阜まつりと岐阜県内の祭りの比較		
第二節 全国の都市祭礼と岐阜まつり		
第三節 岐阜まつりの特徴と地域性		

岐阜まつり関連年表

西暦	和暦	おもな出来事
一三五九	延文四	三月三日から六日まで八講を開き、厚見郡平田東西庄以下の郷から頭人が出て奉幣する。
一四九六	明応五	「濃州第三宮因幡大菩薩の祭礼再興の題辞」に、このころ、伊奈波神社の祭礼が衰えてきたと記載。
一五九六 一六一五	慶長年中	祭礼が復興して、三月三日に岐阜町全体から二十四台の山車が曳かれる。
一七〇〇	元禄十三	慶長年中から縮小されて、この年から山車が二台を飾るのみとなる。
一七二五	享保十	上大桑町から白髭、東材木町から郡鄂の山車が曳かれる。からくりを披露。
一八二七	文政十	岐阜奉行所の意向により狂言が禁止になる。
一八七三	明治六	太陽暦の採用にあわせて、祭日が四月四日・五日に改められる。
一八八八	明治二十一	安宅車の大改造が行われ、弁慶・義経のからくり山車に改装される。
一八九〇	明治二十三	この年から山車の当番を籤引きで決めるようになる。
一八九一	明治二十四	濃尾震災。車之町、加茂町、中鉄屋町・下鉄屋町共有を除くすべての山車が焼失。
一八九四	明治二十七	加茂町の山車が武儀郡関町に売却される。

西暦	和暦	おもな出来事
一八九八	明治三十一	神幸祭が再興される。
一九〇四	明治三十七	玉井・元浜・湊の三町が共同で清影車を新造する。
一九〇八	明治四十一	このころ、若戎車が加納本町三丁目から金屋町に移ったか。
一九三八	昭和十三	戦争のため山車の奉曳がなくなり、神事のみとなる。
一九四二	昭和十七	戦争激化により、この年（または前年）から神幸祭が中止される。
一九四五	昭和二十	岐阜空襲により、安宅車・若戎車・清影車・踊車を除く山車が焼失する。
一九四七	昭和二十二	神幸祭が再開。
一九五八	昭和三十	安宅車が岐阜市重要有形民俗文化財に指定される。
一九五九	昭和三十四	神幸祭に初めて自動車を導入される。
一九六〇	昭和三十五	伊勢湾台風により清影車からくり人形の破損など各山車に被害が生じる。
一九六二	昭和三十七	神幸祭においてはじめて登輦祭・還幸祭が実施される。
一九六七	昭和四十二	岐阜まつり終了後、安宅車が伊奈波神社に奉納される。伊奈波神社に安宅車の山車蔵が完成。 このころ若戎車が伊奈波神社に奉納されたか。

西暦	和暦	おもな出来事
一九六八	昭和四十三	若戎車を明徳地区が、清影車を京町地区が奉曳する。このころ、清影車が伊奈波神社に奉納されたか。
一九七三	昭和四十八	岐阜まつりを協賛する形で、第一回道三まつりが開催される。
一九七八	昭和五十三	若戎車・清影車・踊車が岐阜市重要有形民俗文化財に指定される。
一九八八	昭和六十三	この年からボーイスカウト岐阜第十六団が神賑会から踊車の曳行を引き継ぐ。 岐阜市制百周年を記念して、木造町が四十年ぶりに本神輿を担ぐ。
一九九五	平成七	岐阜まつり宵宮実行委員会、岐阜神輿連が発足する。
一九九六	平成八	この年から道三まつりとともに宵宮・神幸祭が四月第一土曜日に変更される。
一九九七	平成九	木造町神輿三基が岐阜市重要有形民俗文化財に指定される。 神幸祭と宵宮が荒天のため中止になる。
二〇〇八	平成二十	この年から神幸祭にて伊奈波・金・檀森の三社による合同祭典を行う。
二〇一一	平成二十三	東日本大震災により、神幸祭と宵宮が中止になる。
二〇一九	平成三十一	「伊奈波神社祭礼に伴う岐阜まつり行事」が岐阜市重要無形民俗文化財に指定される。
二〇二〇 二〇二一	令和二 令和三	新型コロナウイルス感染症拡大により、宵宮が中止になる。

